



CAMBRIDGE
UNIVERSITY PRESS

CAMBRIDGE

UNIVERSITY PRESS

Japan Booklet

日本中の先生方に
学校現場の様子を
伺いました

学校での英語教育への取り組み

ユニークな授業実践

CELTAを活かした授業指導例

ICTの活用

Critical Thinking, CLIL

先生方の英語力向上と指導力養成

文部科学省受託プログラム

ケンブリッジ大学出版
ブックレット

2022

私が5年間教えている初のUncover導入学年に、
こんな成果が見られました！CASE
15佐野日本大学中等教育学校
大橋 優生 先生使用教材: **Uncover, Unlock**

本校は中高一貫の学校で、前期課程でUncover、後期課程でUnlock 2nd editionと、ケンブリッジ大学出版の教材を活用しています。最初はCambridge Dayでこの教材に出会い、ほとんど一目ぼれに近い形で採用に至りましたが、活用を始めて年数が経ち、自分なりの授業のスタイルが見えてくる中で、生徒たちの成績などの結果にも様々な効果が見えてきました。ここでシェアさせていただければと思います。

1. 授業で工夫していること

とにかく「生徒が活動している」状況を生み出す

それだけ?といった内容ですが、私自身、最初のうちは何でもかんでも説明したくなってしまう癖が抜けませんでした。というのも、UnlockにしてもUncoverにしてもコンテンツ重視なので、一般的な教材では絶対に出ないようなタイミングで、難しい単語がどんどん出てきます。教員としては、その単語の意味も分からないと生徒は理解できない、活動できないのではないかと不安に苛まれます。しかし、実際のところ、教員があれこれ説明したことは実際には生徒は覚えていないように思います。くだらない雑談は覚えてくれていますが(笑)。ですから、UncoverもUnlockもとにかく教科書の順番に沿って、生徒の活動を中心に授業を進めることが重要だと思います。

生徒の想像力は驚くほどで、活動を繰り返す中で、本文の難解な語の意味にも迫っていくことができます。そのうえで、生徒が辞書を引いたりしたときに、「やっぱりこういう意味だったのか!」となれば、その語彙は一失忘れないactiveな語彙になるのではないかと思います。

【Unlockを活用した授業例】

先日行った授業の例をご紹介します。私は今5年生(高校2年生)の授業を担当していて、Unlock Level 3 Reading & Writingを使用しています。Unit 5にHealth and Fitnessという単元があるのですが、そこで、「運動と食事、健康のためにより大切なのは?」という問いが出てきます。もちろんそのままチャレンジさせても面白いのですが、ちょっと味付けを加えて、医師と肥満の患者という設定で、患者側になった生徒に、趣味や年齢、困りごとなどの設定を考えさせ、それを医師側の生徒に英語で伝え、医師側の生徒は即興でアドバイスするという活動を行いました。アドバイスの際に、その患者にとって「運動と食事、どちらを先に改善すべきか」ということについて、伝えるようにと伝えました。最初に1分間、患者側の生徒に時間を与え、その後、活動をスタートしました。ここで1つ質問です。生徒が最初にすることは何だと思いますか?なんと、診察室の席のアレンジを始めました(笑)。あるグループは教室から出て行って、ノックから始めていました(笑)。もちろんこの活動の準備段階から、教師側の説明含めて、すべて英語で行われています。その過程で、生徒はobesity(肥満)という単語はもちろん、例えば、太っているせいでよく躓くと言いたくて、stumbleという単語を調べて使っていました。また、医師側の生徒に意味を伝えなければいけませんから、実際にジェスチャーも加えて、必死に意味を伝えます。そうした活動の中で語彙を習得するのは、まさに王道の語彙習得だと思いますし、後述するように、模擬試験はじめ、生徒の成績を見ても効果的な学習方法だと今では確信しています。

また、別の例ですが、Unlock Level 2のUnit 5にUnusual sportsという文章が出てきます。世の中には、本当に不思議なスポーツもあるんだなと私自身驚かされたのですが、生徒は自分たちで、もっと不思議なスポーツがあると調べて私に教えてくれました。ある生徒は、Beer Mileというスポーツを紹介してくれ、お酒好きならぜひ、と私に言っていました(笑)。生徒と教材で学んだ話題で盛り上げられるというのは、教員として、とても素晴らしい時間だと思います。





2. 困難をのりこえて、自分の授業スタイル確立へ

今では楽しく教材を活用しながら生徒と英語を学んでいます、同時に多くの困難もありました

例えば、導入の際には同僚や保護者への説明が必要になります。比較すれば高価な教材ですので、事実、非常にハードルが高かったです。導入初年度は、私の担当学年のみ導入をし、研究授業などを通して粘り強く説明を繰り返してきました。

また、英語の教材を使用して、英語だけで授業することは、はじめは本当にストレスでした。上手に話せなかったらどうしようと夜な夜な原稿づくりをしていた時もありました。ですが、冷静に考えてみると、私が必死に理解するような英語は、生徒のレベルに適した英語ではありません。教員も、教員であると同時に英語学習者なわけですから、勇気をもって生徒の前で自分自身も成長していこうと思うことで、徐々に英語で授業することへのハードルは下がっていきました。生徒に限らず、英語を話すことのハードルは、話し始めが一番大きいような気がします。一步目を踏み出す勇敢な姿を我々教員が見せることは、生徒が勇気を持って、英語を話し始める一歩を後押ししていいのではないのでしょうか。

そうこうしていくうちに、私の今の授業は8割以上、生徒が何かしらの活動をしているようになりました。文法はどうするんですか?とよく質問されるのですが、オーラルイントロダクションと板書で導入した後はとにかく活動の中で学んでいきます。前述のような様々な困難もありましたが、生徒が楽しく活動する様子と、後述するような成果が私の背中を押してくれ、今の授業スタイルにつながってきました。

3. これまでの取組の結果

生徒が使えるようになった分だけ
真の英語力が伸びることを実感しています

本校は日本大学の付属校です。また、多くの生徒が国立大学入試や医学部入試にも挑戦します。某模擬試験では、英数国の3教科の偏差値が学年で52くらいでしたが、英語は58でした。また、全日大付属校で行われる試験では、全付属の中で、初めてUncoverを導入した学年が1位を獲得しました。もちろん模擬試験などの結果が全てではありませんが、本校のみならず、多くの学校で生徒の進路実現は重要項目になっていることと思います。そのために、模擬試験の前には過去問をという学校も多いのではないのでしょうか。私自身、一切そうした試験対策は行いませんし、試験前日であろうと、授業は活動ばかりです。それでも、こうした結果が出るのは、いかなる試験であったとしても、結局は英語の力を問う試験なのであり、生徒が使えるようになった英語の分だけ成績が上がるからなのだと思います。

以上、様々書かせていただきましたが、初導入から今まで、この教材の出来栄には驚かされてばかりです。もちろん、今言ったような活動は他の教材でも実現可能ですが、この教材を使用しているとTeacher's Manualでほとんど授業が完成してしまうので、その分だけ、紹介したような活動へのちょっとした味付けや、あるいは自分自身の英語力の向上に時間を使うことができます。今後ともに、自分自身の英語力と指導力向上のために、努力を積み重ねていこうと思います。

大橋先生のUncoverを使った授業の実践例やアイデアはこちらのQRからご覧いただけます。



Cambridge Day

ケンブリッジ大学出版が主催・開催する英語教員向けイベント。2017年からスタートした本イベントは、主に中高の先生方を対象に開催。リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングのスキル別および4技能授業での指導法や実践例、Critical Thinking、ケンブリッジ英語検定、CLILなどをはじめ、先生方のご興味あるテーマ・トピックを扱った内容で役立つ情報をお届けしています。



2021年開催の情報は、当社HP「イベント・お知らせ」に随時アップしていきます。



過去のイベントの様子は、当社HP「ケンブリッジクラブ」からご覧いただけます。

教材



Uncover

4 Levels (10 Units/Book)

A1, A2, B1, B1+



世界中で撮られた魅力的なDiscovery Education™ のビデオを通して、教室にいなから世界の文化や生活について学べる中高生向け教材



Reading, Writing and Critical Thinking



Listening, Speaking and Critical Thinking

Unlock 2nd ed.

6 Levels (8 Units/Book, Basic 1st ed.: 10 Units/Book)

Pre-A1, A1, A2, B1, B2, C1

易しいレベルから始められるEAP教材。世界中で撮影された質の高い映像と学術的なトピックで、言語だけでなく批判的思考力を強化